

知事と県民の意見交換会（山本地域振興局）議事要旨

- テーマ : 女性活躍で地域が輝く！ 山本地域の輝く女性のあり方
- 日時 : 令和6年7月25日（木）9：45～11：45
- 場所 : 【視 察】中国木材株式会社 能代工場 製材工場
【意見交換】中国木材株式会社 能代工場 事務所

知事あいさつ

この意見交換会は、多くのジャンルや年代にわたり、現場で活動される若い方々の御意見を伺い、県の各種計画や予算に反映するため開催するものである。

秋田県は全国でも女性に対する固定観念が強いと感じる。女性の能力を発揮する機会がないということは社会的に損失である。

今日は皆さんから実際にやっていることや将来の希望、社会に対する認識を伺い、県の事業や政策に生かしていきたいと思う。

意見交換

（局長）

それでは、日頃取り組んでいることや課題、働いて感じたことなどをお話しいたきたい。

（A氏）

私の会社では意識して女性の活躍に力を入れているわけではないが、男女関係なく活躍できるフィールドが整っていると自負している。

えるぼしや女性活躍に囚われず、男女関係なく働きやすい環境を整えていく上で、いかに女性自身のやる気を引き出していくか、それが会社ひいては地域の課題だと常日頃感じている。

（B氏）

女性が仕事していけるということを一般に広めようと、女性だけで現場見学会や重機の運転体験会を開催している。

女性が働きやすい職場というのは男性も働きやすいだろうということをモットーに、これからも女性による活動を頑張っていきたい。

（C氏）

私の会社は機械化が進んでいるので、女性が働けるポジションが結構あり、男性と同じ仕事量で働けるのが、とても嬉しいと感じる。

これから女性も増えてくるという話も聞いているので、私が頑張ることで女性でも働けるという証明になればと思う。

(D氏)

私は秋田市出身で、能代に来て3年半になる。最初の地域おこし協力隊の3年間では中心市街地活性化で、空き店舗の利活用やイベントの運営・サポートをやってきた。

協力隊ではSNSで情報発信をやってきたが、今でもいろいろな相談があり、情報を求めている人が多いと驚いている。

(E氏)

私の会社では杜氏がおらず、上下関係もなく、男女問わず働きやすいように社長も機械を入れてくれている。

会社では産休や育休という制度も充実はしているが、女性社員からはそれらの制度を利用しづらい雰囲気という意見もあり、今日は皆さんの意見を聞いて勉強したいと思う。

(F氏)

自然アドバイザーという役職は一人で、私は三代目だが、二代目までは男性がやっていた。登山自体が男性の方が多いいジャンルだが、10年くらい前から山ガールのブームもあって、女性の参入が増えてきた。

しかし、アドバイザーは一人だけという状況で、現状維持はできても、将来の展望、事業設計みたいなものがなかなか見えてこない状況にある。

(G氏)

私は平成16年に能代市で初めての女性自治会長となった。

例えば祭り事とか、これまでの行事はほとんどが男性中心のものだったが、私たちの自治会では、祭りについては祭典委員会をつくり、別々にすることで円滑に進んでいる。

また、男女共同参画の視点で、県が実施している女性のリーダー研修会では、「男尊女卑が強くて女性が決定できる場が少ない」という声があるなど、やはり意識改革や女性がチャレンジすることの重要性を感じている。男性も意識改革をしていただき、それぞれに平等であることを意識しながら地域活動をできたらいいと思っている。

(知事)

最近の経営者や上司の中でも、元々の意識がしっかりしている方々は自然発生的に女性に対する偏見がない。男女の差別なく、仕事の割り振りなどをうまくバランスをとってやっている。

当然、高齢の経営者でもそのような意識をしっかり持っている方もいるほか、最近では世代交代が進み、若い社長になって変わったりもする。今日参加されている方の会社の経営者は、意識がしっかりしているようなので、うまくいっているのではないだろうか。

(局長)

ここからは女性活躍で地域が輝くために、働きやすさや管理職登用に向けた環境づくりなどについて、要望や提案、県にやってもらいたいことなどについてお話しいただきたい。

(A氏)

私は会社の中で主に採用活動を行っている。その中で、能代にはどんな会社や仕事、働く環境があるのかというのを、特に女性求職者の方が不安に思っていると感じ、それを解消しなければならないと思っている。

そこで思いついたのが、県が主体で行うマッチングシステムであり、企業のアウトソーシングや大人のインターンシップのようなものを行政が担っていただければ、企業も求職者の方もミスマッチを防げるのではないかと考える。

大人のインターンシップなどで、求職者の方が多種多様な経験ができれば、自身のキャリアの選択の参考や、育児や介護などの福利厚生制度をはじめとした働く環境を知ることができて、少しは不安を払拭できる機会になると考える。

しかし、こういう仕組みづくりに関しては、お金などのハードルがあると感じており、県のサポートなどが強く求められることだと思う。

(B氏)

私のいる建設業は、特に女性からの人気が高い仕事であり、最近では、実業高校から入社する人もいますが、すぐに離職してしまう状況にある。また、企業説明会では、実業高校でしか機会を与えてもらえず、能代市内の普通高校にも企業説明ができればと思っている。教育委員会などを通じて、そういう機会を持たせてもらえたらと思う。

(C氏)

私の会社では女性が働ける職場にはなっていると思うが、子どものいる女性にとってはハードルが高いと感じる部分があり、やはり託児所がほしいと思う。

託児所のためには、どんな資格が必要で、費用がいくらかかるかなど、どのような段階を踏んで実現していけばいいのかということをお教えしてもらえればと思う。

(D氏)

協力隊を終えてからも、街づくりの会社に入らせてもらい、コミュニティマネージャーを担当させてもらっているが、地域活動は仕事として続けるのが難しく、協力隊を辞めると地域活動ができなくなるというのはよくあるパターンだと思う。

女性の働きやすさということでは、もっと地域活動に気軽に参加できるぐらいの心の余裕が持てる地域になってくれたら嬉しいと思う。地域全体で子どもたちを育てていく、介護でも大変な方たちをサポートしていくという体制をみんなで作っていかれたらいいと思っている。

(E氏)

私の会社では子育て支援は結構充実していると思うが、結婚や子育てをしている方々からすると育休などをとりやすい雰囲気にはまだなっていないようである。事務所の女性社員からは、産休や育休に入る際に「会社に対しても何か補助金があったらいい」、「自分が抜けた時に会社が人材を募集できるような補助金があればいい」という声があった。

また、町としては過疎化問題もあるので、そういう目線から会社では、小学校から高校までの一連

の子育て支援をしてくれている。

会社も取材などで女性もこのように働いている、酒造りの方でも女性が働ける職場と情報発信をしており、それが広げられるような環境にもできたらと思う。

(F氏)

私の所属する団体自体は小規模であり、休日出勤してお客さんに対応しないといけないことが多いことから、もっとたくさん人材が必要だと常に思っている。

女性の活躍支援で、子育て支援の話が出てくるのは少し違うと感じている。男性も育休をとって家庭の子育てに参加するというのが今の流れであり、子育ては女性だけでなく、男性も積極的に参加していかないと働きやすさの問題は解決しないと思う。

地域の子ども向けに、色々な職業の紹介をすることは非常に大切だと感じており、現在子ども向けの活動に力を入れている。例えば、自然教育系は理系の男性が多いため、男の子向けの教育は充実しているものの、女の子は興味を持って結局諦めてしまったことがあった。自然教育に興味を持ってくれた女の子にも、大人がこれをどう仕事に生かせるのかを見せていくということが大切だと思う。

(G氏)

地域づくりは本当に果てしなく、色々考えさせられるところが多い。

今はキャリア教育がとても重要になっていると思う。私たちは高校生と一緒に環境保全の活動をしていて、アースデイ能代というのを作った。それが今、どんどん広がって秋田県全体が環境保全を考えるようになってきた。

ほかにも私がやっているのは地域の拠点づくりで、交流施設、店舗を毎日やっており、そこに県内、県外の方が多くいらっしゃる。人と人との交流が大事であり、私たちに関わってくださった方たちが、共助の気持ちで我々を助けてくれるという形が大事である。

託児所の話があったが、民間の託児所はもっと簡単に作れないものかなと思う。地域の中に子どもを預かる場所がたくさんあると、お母さんたちも色々な活動ができるほか、子育てもしやすくなり、明るい未来になると思う。

(知事)

よく言われているのは、保護者が地元の企業、近くの企業を知っていないといけないということである。一般的にあの企業はいい企業だと言ってもなかなか伝わらない。保護者の方が会社を理解してくれると離職率が低くなる。給与水準や働きやすさもあるが、保護者に理解してもらうことも重要である。

建設業や木材製造業に対しては、親御さんの方がまだ分かっていない傾向がある。今の現場は全く違っており、成瀬ダムの現場では、無人の大型ブルドーザーを事務室でコンピューターを使ってオペレートしている。学生の保護者の方に、今の現場がどうなっているのかを見てもらうことを実際にやり始めており、少しずつ理解されてきている。

託児所は、横手工業団地がそれを売りにしている。民間企業の中の託児所だが、工業団地エリアの他の企業の方も利用でき、企業が協力しながら運営している。ほかには託児所と小児科病院を併設しているところもあるなど、経営者の意識がとても高い企業もある。ある程度の大きな規模の企業にな

れば、そう難しくなく託児所はできる。

育休は少人数ではなかなか難しいところがある。社員のローテーションができないと難しい。補助などの様々な制度はあるが、日本の経営者がどういう意識を持つか、ここが難しいが経営者の意識も良くなっていると思う。

地域の子どもの関係だが、これは一番に必要なことである。例えば、最近では理系に女性が増えているが、約50年前に私が大学に入った時には、工学部が定員800人に対して女性が3人だけだった。今は2割ぐらいまでにはなったが、欧米では半数が女性である。

自治会については、私の町内会でも役員に女性を増やそうということはある。集まりに行くと男性が酒を飲んで、注ぐのは女性とか固定観念に基づく形式的な慣習が強い。日本は形式を重んじており、もっとフランクにしないといけないと思う。

家事については、自分は女性の中で私だけ一人男性という中で育っており、私にとっては家事をやるのが当たり前である。朝ご飯を作り、洗濯に掃除、買い物も全部やる。

男女の役割分担の古い意識は、最近の若い方は相当なくなっているが、社会全体ではもう少し時間がかかると考える。

皆さんのお話、今日は非常に参考になった。あとは将来のイメージや夢を聞かせていただきたい。

(A氏)

今の会社の中で総務課長をやらせてもらっているが、もっと上に、できれば取締役になりたいという目標はある。

これは私自身の働き方もそうだが、私のこれから後輩になってくる男性や女性の社員の目標になれるような存在になりたいと思う。

(B氏)

何年前かに災害関係の仕事で、女子事務員4人で災害の現場に行きたいと言ったらダメだと言われたことがある。そのようなこともあり、私は女子だけで現場を一つ完成させたいと考えている。

(C氏)

今、女性の管理者がいない状態で、将来は班長や主任になってほしいと言われており、そう言ってもらえることを嬉しく思う。管理職になれるように頑張りたい。

(D氏)

まずは心穏やかに暮らすということである。自分自身もだが、周りの人もそういう風に暮らせるように自分の活動をしていきたいと思っている。

私は昨年大雨で秋田市の実家が被災し、苦しい経験をしたことがあるため、誰かが何か困った時にすぐ助けになるような力を身に付けていきたいと思う。

(知事)

Dさんはマルヒコビルディングでどんなことをしているのか。

(D氏)

コミュニティマネージャーということで、仕組みづくりなどをさせていただいている。ビルの中のカフェに、商品を飾って販売したりできるスペースがあり、そこを利用して商売したい人のサポートや、イベントづくりなどに関わっている。

ほかに、地域の拠点として、災害があった時に何かできる場所になればと考えているところである。

(E氏)

私の会社では、造りの方では私が初めて女性として入って、今の業界では、女性の杜氏というのも珍しくなくなっている。

私は8年目で、勉強中の身であるが、もっと下の子たちにも教えられるよう、また、私も頑張りたいという女性が増えてもらえるように、もっと頑張っていきたいと思う。

(F氏)

白神山地は十和田や八幡平へのドライブのついでに来る方が多いので、他の関係団体の皆さんと協力して、温泉に入ったり宿泊したりとじっくりと楽しんでいただき、地域にもっとお金が落ち、観光地としてしっかり成り立つようにしていきたい。

私たちの世界遺産センターでは日帰りのイベントを多く開催しており、主に県内の方が参加しているが、県内の方でも2泊や3泊でも長期に楽しんでいただけるようなイベントをやっていきたい。

(G氏)

能代市では266の自治会があり、最初、女性の自治会長は私一人であったが、ようやく女性が3人になった。しかし、20年経っても3人であり、なぜ進まないのだろうと歯がゆい思いを持っている。

能力が高い女性たちはたくさんいるが、なかなか自ら積極的に手を挙げるということができない状況にある。そのため、若い人たちが自治会に入ってくださり、皆さんが協力して地域を良くして下さることが一番ありがたい。

また、県や市町村には、伴走型の支援をしていただきたいと思う。基本的には民間主導の活動をずっと続けてきたが、一緒に手をつなぎながら横を走っていただきたい。

(丹治理事) ※オブザーバー参加

皆さんの色々なお話を聞かせていただき、様々な課題がまだまだあるということを感じた次第である。

私から皆さんにお伝えしたいことが二つあり、一つ目は先ほどFさんから女性活躍で産休・育休というのはおかしいというお話があったが、私もまさにそれを思う。大学を卒業して就職をする手前の方々を対象にマイナビが調べたアンケートの情報によると、子育てについて男女の学生に聞いた結果では、「育休を取って子育てしたい」という男子学生が61.3%おり、女性の63.2%と男女間の差がなく、「子育てをしたい」、「家事育児を夫婦で分担して働きたい」というような学生も非常に多くなってきている。

先日の意見交換会でも、女性の方が「家族から家のことにもっと専念してほしいから、仕事を辞め

てほしい」と言われたということを知り、本当にショックを受け、まだ秋田を変えていかなくてはいけないと思ったところである。

私共が進めている取組は、男性の家事、育児への参画をもっと広めるものであり、「もっと時間があれば頑張れるのに」と思える女性がたくさんいる状況を打破して、女性の時間を作りたいと考えている。

家のことは女性だと思っている年配の方や、そう思い込んでいる女性もいるので、そういう方たちの背中を押すために、男性の家事、育児への参画を進めたいと思っている。

二点目は教育の問題である。理系の男性が多いというお話があり、例えば女の子がブルーの服を着ていると、女の子には合わないと考える大人がいるというのが問題だ。

親御さんや幼稚園とか学校の先生もそういう感覚を払拭していけるように、働きかけをしていきたいと考えている。

皆さんからいただいた意見も参考に、今後も私も皆さんと一緒に邁進していきたい。

(知事)

周囲の人や環境によって人は変わる。女の子でも男の子のようなおもちゃが好きな子がいれば、その逆もある。親が決めてつけてしまうことによって、大人になっても意識が残る。多世代が住む世帯は子どもを育てるのは楽だが、おじいちゃん、おばあちゃんの時代の固定観念や意識が入ってしまう恐れがある。

若い方だけの世帯、単独の夫婦と子どもさんの世帯は経済的には苦しいこともあるが、固定概念は入りにくいこともありそのバランスが非常に難しいと思う。

皆さんのように社会を変えようと意識を持った方が大いに発言していかないと、何も変わらない。少し反発があっても、思ったことを話すことによって、少しずつ変わってくると思うので、皆さんには元気で活動し続けてほしい。